

2020

4年後のことを言うと、鬼も笑えない。

FUKUYAMA

Eiji Murakami presents



村上栄二 HP
「村上栄二しんぶん増刊号」
<https://murakamiejicom.jimdo.com>



こちらの QR コードからもアクセスいただけます。

今回のテーマ、ざっくり言うと…

- ・ 走島町高齢化率 80%、限界集落が福山市内に多数存在する。
- ・ 福山市東部地域、特に春日台の厳しい現実
- ・ 平成7年高齢者数 51395人、平成27年 123441人、働く世代は増えず切迫する財源問題
- ・ 役所の数字で誤魔化されない、本当の数字を伝える事が政治家の役割

福山市における人口減少化を具体的に伝えていこうと思います。今後、福山市で激変する東部地区（春日台・伊勢丘・東陽台）は日本鋼管進出と高度経済成長期を背景に住民が一斉に移動し、限られた年齢構成の世代が集まる地域です。

走島町高齢化率80%を含め限界集落（高齢化率を50%超える地域の割合）も多数見受けられている福山市。逆に引野町南二・三丁目の高齢化率は3%程度となっています。

役所が出しがちな「福山市全体」で言えば、高齢化率27%を「尾道34%」「府中市35%」と比較すべきではありません。他都市と比較発想はなくすべきです。

あくまで住人目線で政策を考えていかなければなりません。

■東部地域の特徴

- ① 1970年代、家族4人暮らしで賑わっていました。
- ② 2000年代、子供が育ち居なくなるだけで住民は半分減という事実があります。
- ③ 単身世帯も増加し、子供たちが戻る事も少ないのが現実です。
- ④ 64歳以下は高齢化に入っていないが、ここ数年で加速度的に高齢化が進みます。

福山春日台は人口減、働く世代は半減し、子供も半減、高齢化率も5倍に跳ね上がり、2人に一人は高齢者がいます。当然の事ながら

予想されるのは、町の高齢化も進んでいる事です。平成7年の高齢者総数は51395人でしたが、現在は123441人。働く世代はほとんど変わらず、財政問題が直結するのは間違いありません。

福山市全体の数値で尾道・府中市などと比較するのではなく、各地域で限界集落（高齢化比率を50%超える地域の割合）が存在している事を認識し、各地域のコンパクトシティ化を実行していく事が必要です。

仮に予算を投じて、2024年に団塊世代が全て後期高齢者になっていく中で、地域活動の担い手が不足していく事も予測されるでしょう。これから7年の福山市財政・大きな政策転換をしようにも国の税制改革も進むでしょうし、制約がある中で市長は難しい舵取りを担わなければなりません。

他都市で財政が黄色信号になる目安が「ゴミ袋の有料化」が進むように、福山市でも避けられない状況は否めません。さらに今後の行政課題として、人口が少なく税金を納めていない場所に予算が使われ、税金を納めている地域住民に対して、どういった形で住民説明ができるのか？内海・山野・走島という自然に恵まれているところに対して、トータルで考えた都市ビジョンがなければ、持続可能な街づくりは厳しい現実を迎えるでしょう。

だからこそ私は今後、福山市キャッチコピーとして「日本の住都市ふくやま」を掲げます。

